



Evaluation of urinary desmosines as a noninvasive diagnostic biomarker in patients with idiopathic pleuroparenchymal fibroelastosis (PPFE)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 浜松医科大学 公開日: 2017-06-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大山, 吉幸 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/3183

論文審査の結果の要旨

Pleuroparenchymal fibroelastosis (PPFE)は上葉優位に線維弾性症を呈する稀な間質性肺炎である。確定診断のための外科的肺生検は難治性気胸等の合併症のためにしばしば困難である。PPFE患者肺において、弾性線維が増加していることから、弾性線維の分解産物であるデスモシンがPPFE患者の尿中で上昇していることが考えられた。そこで、申請者らは、被験者から尿を採取し、デスモシン濃度を液体クロマトグラフィー質量分析法にて測定し、PPFE患者、特発性肺線維症 (IPF) や慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 患者及び健常人と比較した。PPFE患者と他の群との判別が可能かどうか判定するために、receiver operating characteristic (ROC) 解析を行った。また、性別や年齢、Body Mass Index (BMI)、喫煙歴等の臨床情報や、血液検査、肺機能検査等の臨床パラメーターとの相関も検討した。

PPFE患者はCOPDやIPF患者と比較して、有意に女性やnever smokerの割合が高く、BMIが低値であった。尿中デスモシン濃度は健常人やCOPDやIPF患者と比較して、PPFE患者において有意に高値を示した(健常人 17.4、COPD 8.0、IPF 28.6、PPFE 48.4 ng/mg creatinine)。ROC解析ではcut-off値 28.0 ng/mgでは、PPFE患者と健常人は感度 92.9%、特異度 100%で識別可能であり、cut-off値 29.2 ng/mgでは、PPFE患者とIPF患者を感度 85.7%、特異度 54.2%で識別可能であった。一方、PPFE患者における尿中デスモシン濃度はいずれの臨床パラメーターとも相関を示さなかった。以上の結果から、申請者らは尿中デスモシンが、PPFEの予後の予測よりも診断用のバイオマーカーとして有望であると考えた。

審査委員会は、尿中デスモシンがPPFE診断に有用な非侵襲性バイオマーカーになり得ることを見出したことを高く評価した。

以上により、本論文は博士(医学)の学位の授与にふさわしいと審査員全員一致で評価した。

論文審査担当者	主査	岩下 寿秀	副査	前川 真人	副査	馬場 聡
---------	----	-------	----	-------	----	------